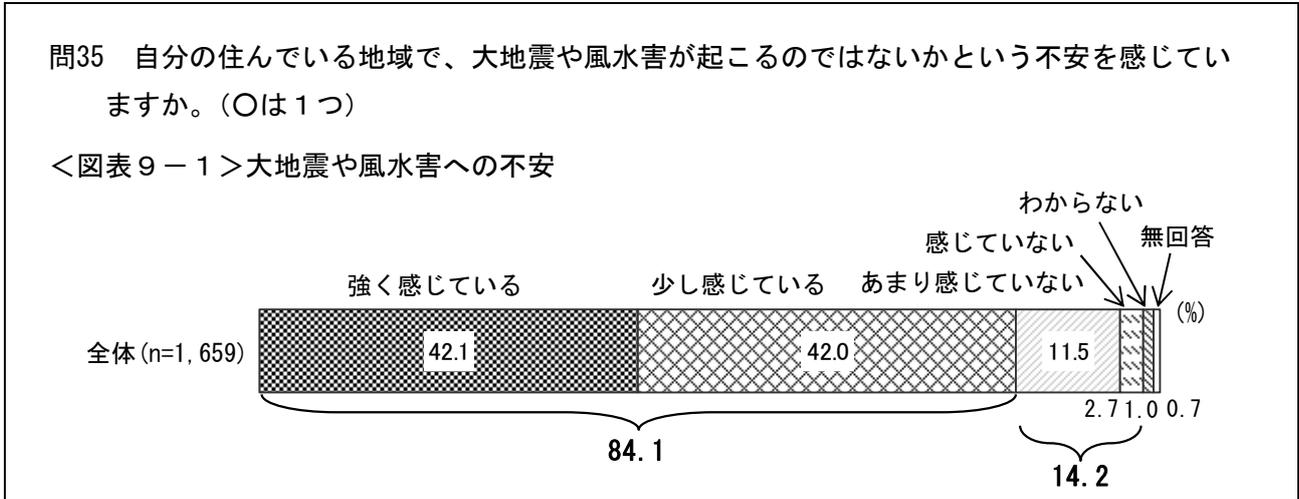


9 防災に関する取組について

(1) 大地震や風水害への不安

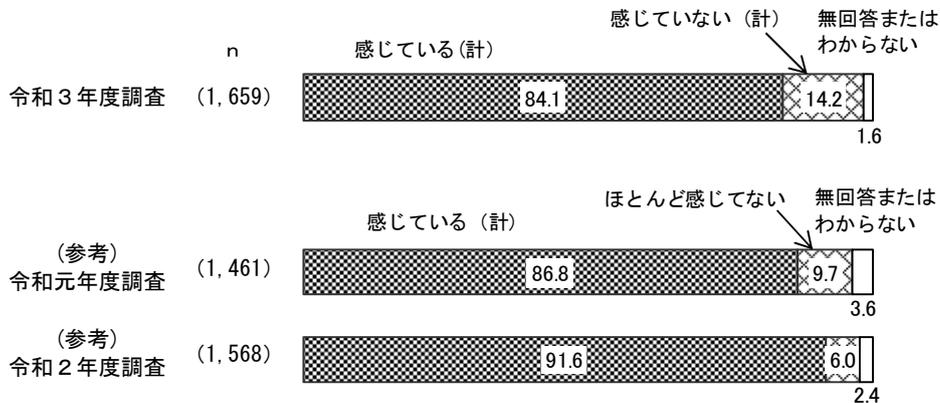
◇『感じている（計）』が8割台半ば



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」（42.1%）と「少し感じている」（42.0%）を合わせた『感じている（計）』（84.1%）が8割台半ばとなっている。

一方、「あまり感じていない」（11.5%）と「感じていない」（2.7%）を合わせた『感じていない（計）』（14.2%）が1割台半ばとなっている。（図表9-1）

[参考] 令和元年度・2年度の類似の項目による調査結果との比較（単位：%）



※ 令和元年度・2年度調査で、「ほとんど感じていない」は単独項目。

(※) 令和元年度調査で、「平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度6弱を記録し、大きな被害が出ました。また、県外では平成28年熊本地震（震度7が2回発生）や、記録的な大雨や台風により浸水害や土砂災害なども発生しております。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

(※) 令和2年度調査で、「平成23年の東日本大震災では、千葉県内でも震度6弱を記録し、揺れや津波により大きな被害が出ました。さらに、令和元年に発生した房総半島台風等の一連の災害では、浸水害や土砂災害など大きな被害が出ました。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

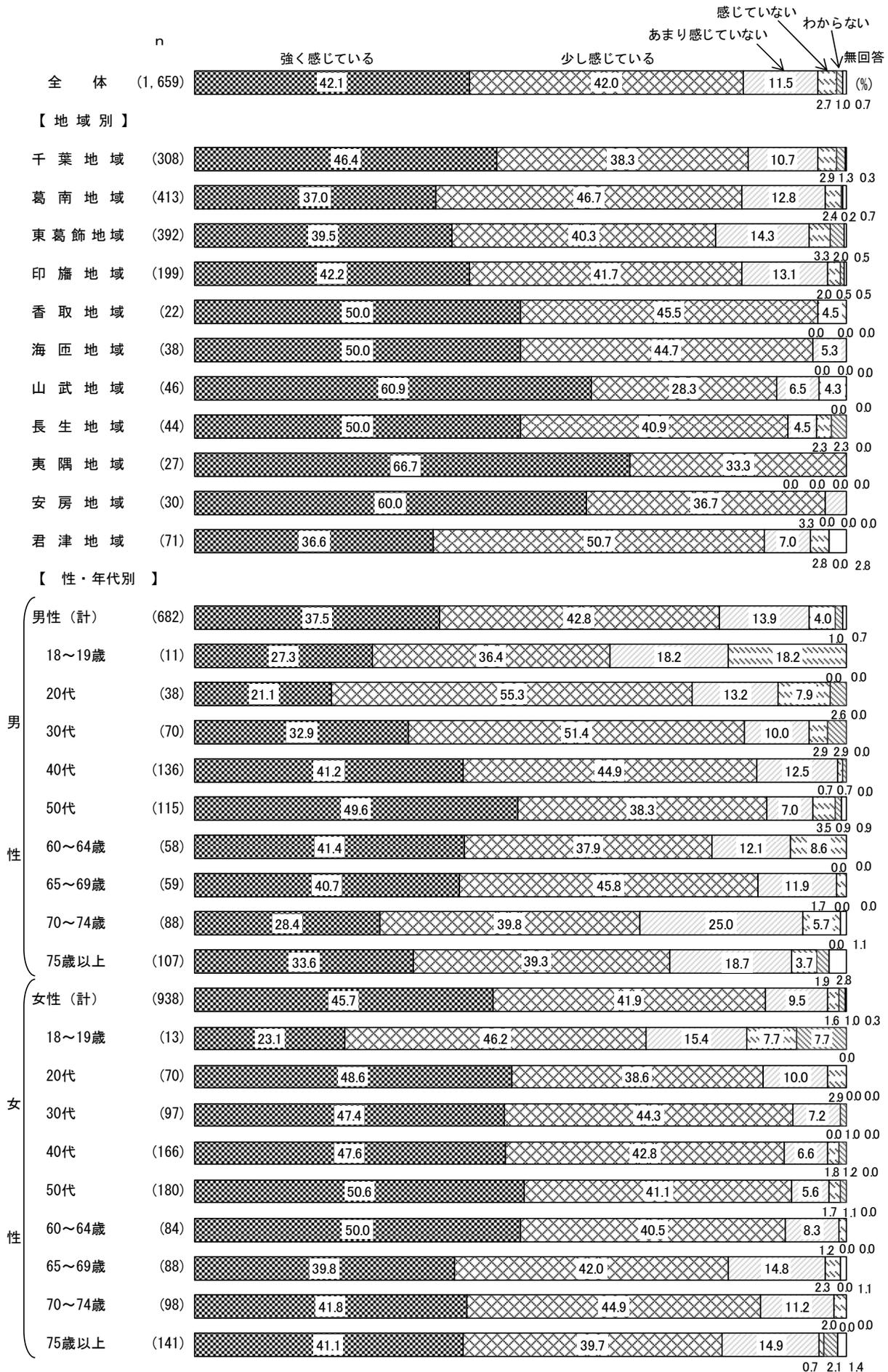
地域別にみると、「強く感じている」は“夷隅地域”（66.7%）が6割台半ば、“山武地域”（60.9%）と“安房地域”（60.0%）が6割で高くなっている。（図表9-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じている（計）』は女性の30代（91.7%）と50代（91.7%）が9割を超え、女性の60～64歳（90.5%）と40代（90.4%）が9割で高くなっている。

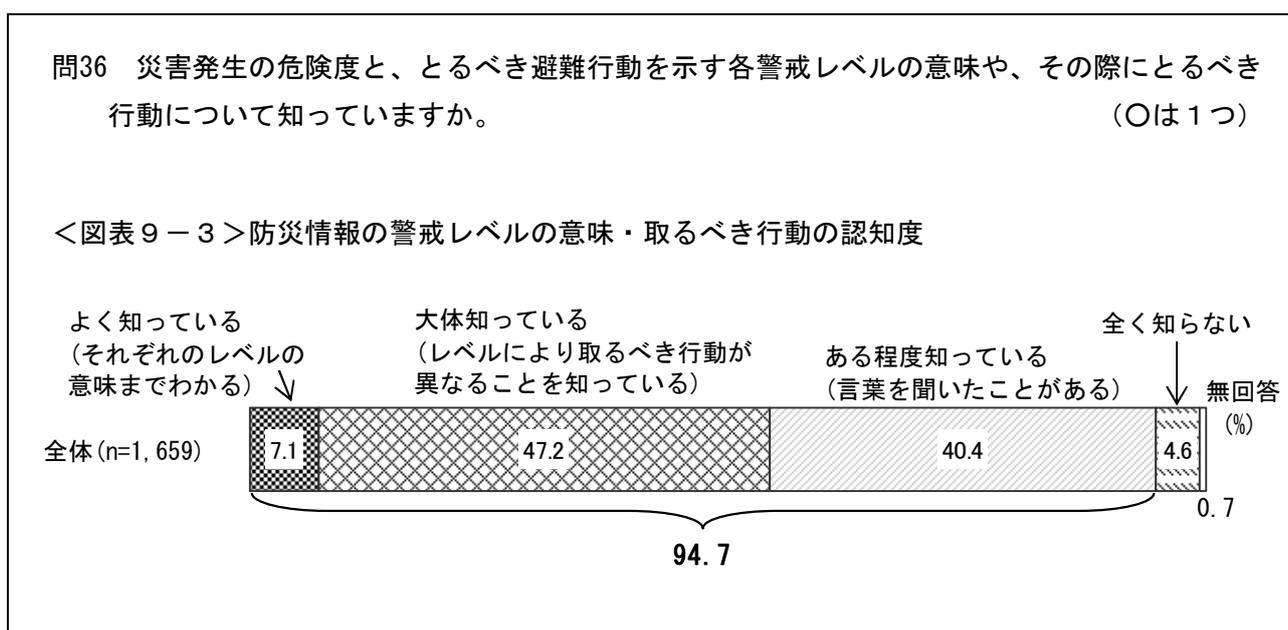
一方、『感じていない（計）』は男性の70～74歳（30.7%）が3割、男性の75歳以上（22.4%）が2割を超えて高くなっている。（図表9-2）

<図表9-2>大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別



（2）防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度

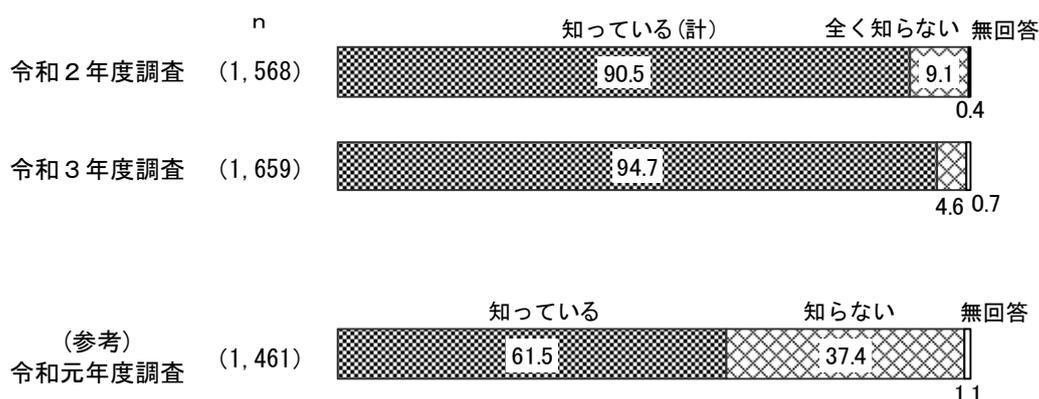
◇『知っている（計）』が9割台半ば



水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動について知っているか聞いたところ、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（7.1%）と「大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（47.2%）、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（40.4%）の3つを合わせた『知っている（計）』（94.7%）が9割台半ばとなっている。

一方、「全く知らない」（4.6%）が1割未満となっている。（図表9-3）

〔参考〕 令和元年度・2年度の類似の項目による調査結果（単位：%）



（※）令和元年度調査で、「水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「高齢者等は避難」、レベル4で「全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法に変わりました。あなたは、そのことを知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

（※）令和2年度調査で、「水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「危険な場所から高齢者等は避難」、レベル4で「危険な場所から全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法で行われております。あなたは、各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動について知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

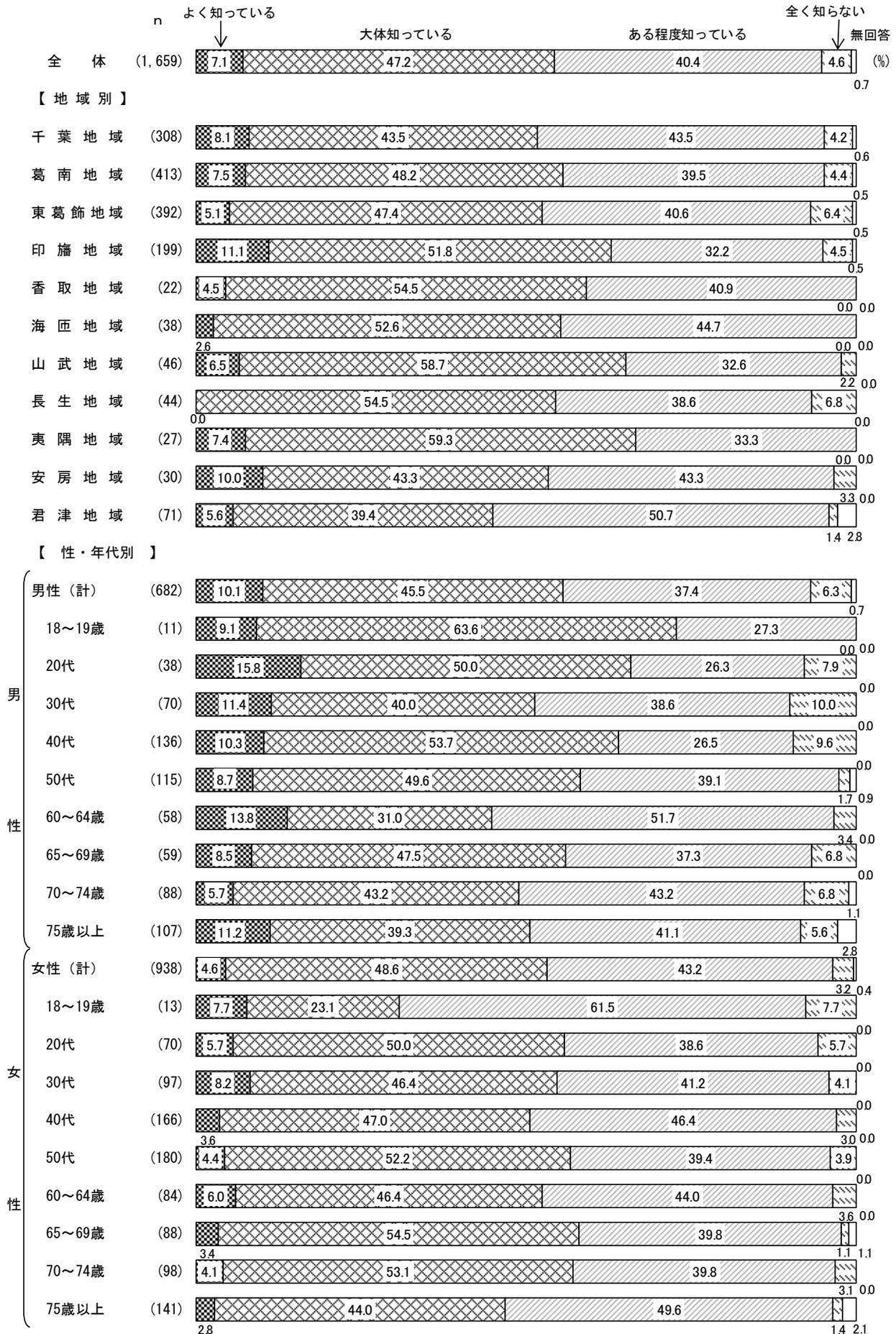
【地域別】

地域別にみると、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」は“印旛地域”（11.1%）が1割を超えて高くなっている。（図表9-4）

【性・年代別】

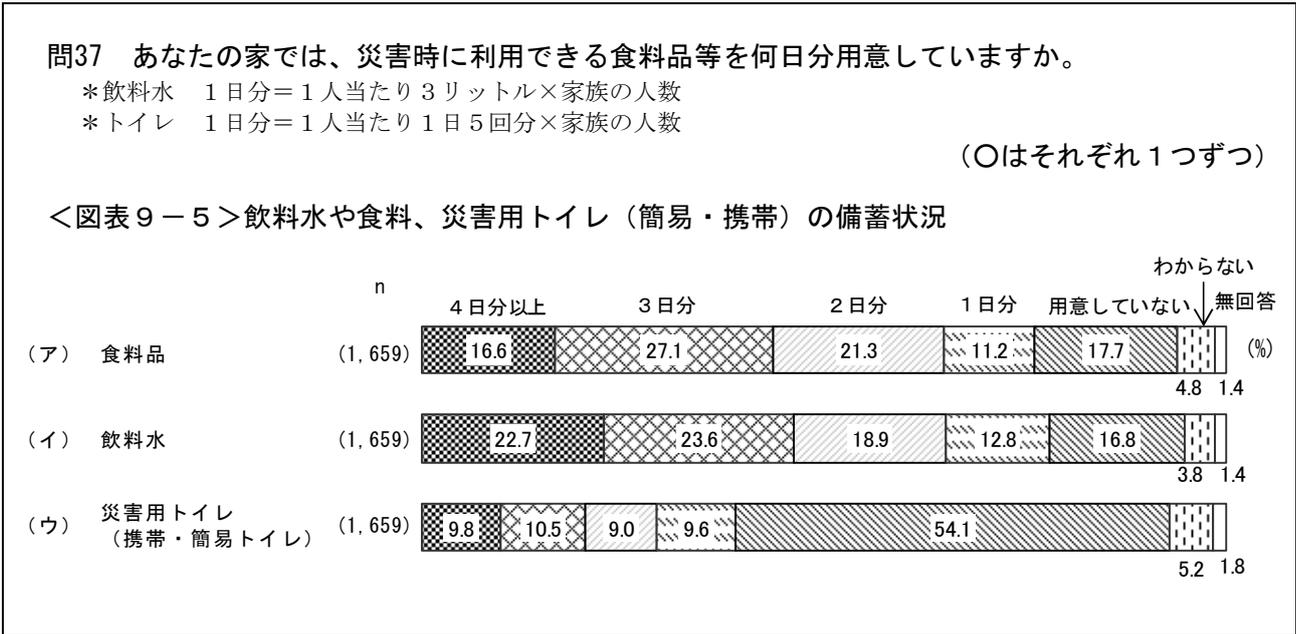
性・年代別にみると、「全く知らない」は男性の30代（10.0%）が1割、男性の40代（9.6%）が約1割で高くなっている。（図表9-4）

＜図表9-4＞防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度／地域別、性・年代別



（3）飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況

◇『備蓄している（計）』が最も高いのは＜飲料水＞で約8割

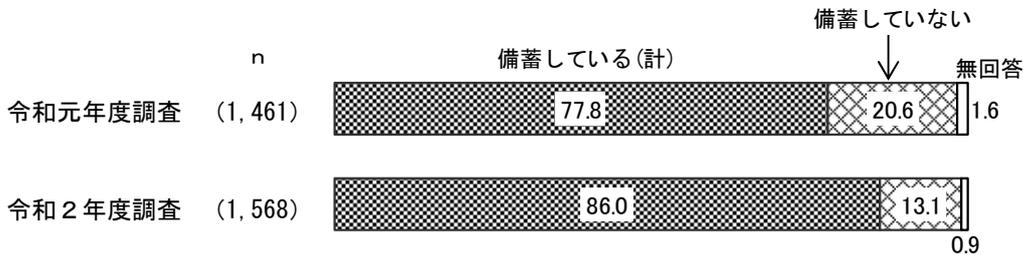


災害時に利用できる食料品等を何日分用意しているか聞いたところ、「4日分以上」、「3日分」、「2日分」、「1日分」の4つを合わせた『備蓄している（計）』が最も高いのは、「(イ) 飲料水」(78.1%)で約8割となっており、以下、「(ア) 食料品」(76.2%)が7割台半ば、「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」(38.9%)が約4割となっている。

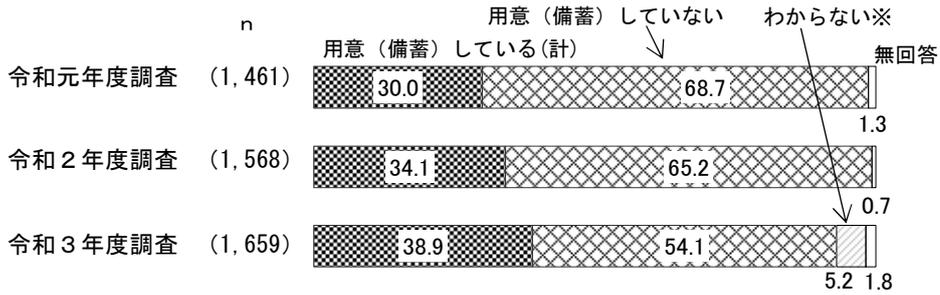
一方、「用意していない」が最も高いのは、「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」(54.1%)で5割台半ばとなっており、以下、「(ア) 食料品」(17.7%)と、「(イ) 飲料水」(16.8%)が1割台半ばとなっている。（図表9-5）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

食料品・飲料水



災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）



※今回調査からの新たな選択肢

(※) 食料品・飲料水は令和2年度調査で、「大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。（〇は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

(※) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）は令和2年度調査で、「大規模な災害が発生した場合、断水や停電、給排水管の損壊、し尿処理施設の被災により、水洗トイレが使用できなくなることが予想されます。あなたは、災害に備えて、家庭での災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）をおよそ何日分、備蓄していますか。（〇は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 食料品」、「(イ) 飲料水」は大きな傾向の違いは見られない。

「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」の「用意していない」は“海匠地域”（68.4%）が約7割で高くなっている。（図表9-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 食料品」の『備蓄している（計）』は女性の60～64歳（92.9%）が9割を超え、女性の65～69歳（85.2%）、女性の75歳以上（85.1%）と女性の70～74歳（84.7%）が8割台半ばで高くなっている。

一方、「用意していない」は女性の20代（30.0%）が3割、男性の30代（28.6%）が約3割、女性の40代（24.7%）が2割台半ばで高くなっている。

「(イ) 飲料水」の『備蓄している（計）』は女性の70～74歳（91.8%）が9割を超え、女性の75歳以上（86.5%）が8割台半ばで高くなっている。

一方、「用意していない」は女性の20代（25.7%）が2割台半ば、女性の40代（22.9%）が2割を超えて高くなっている。

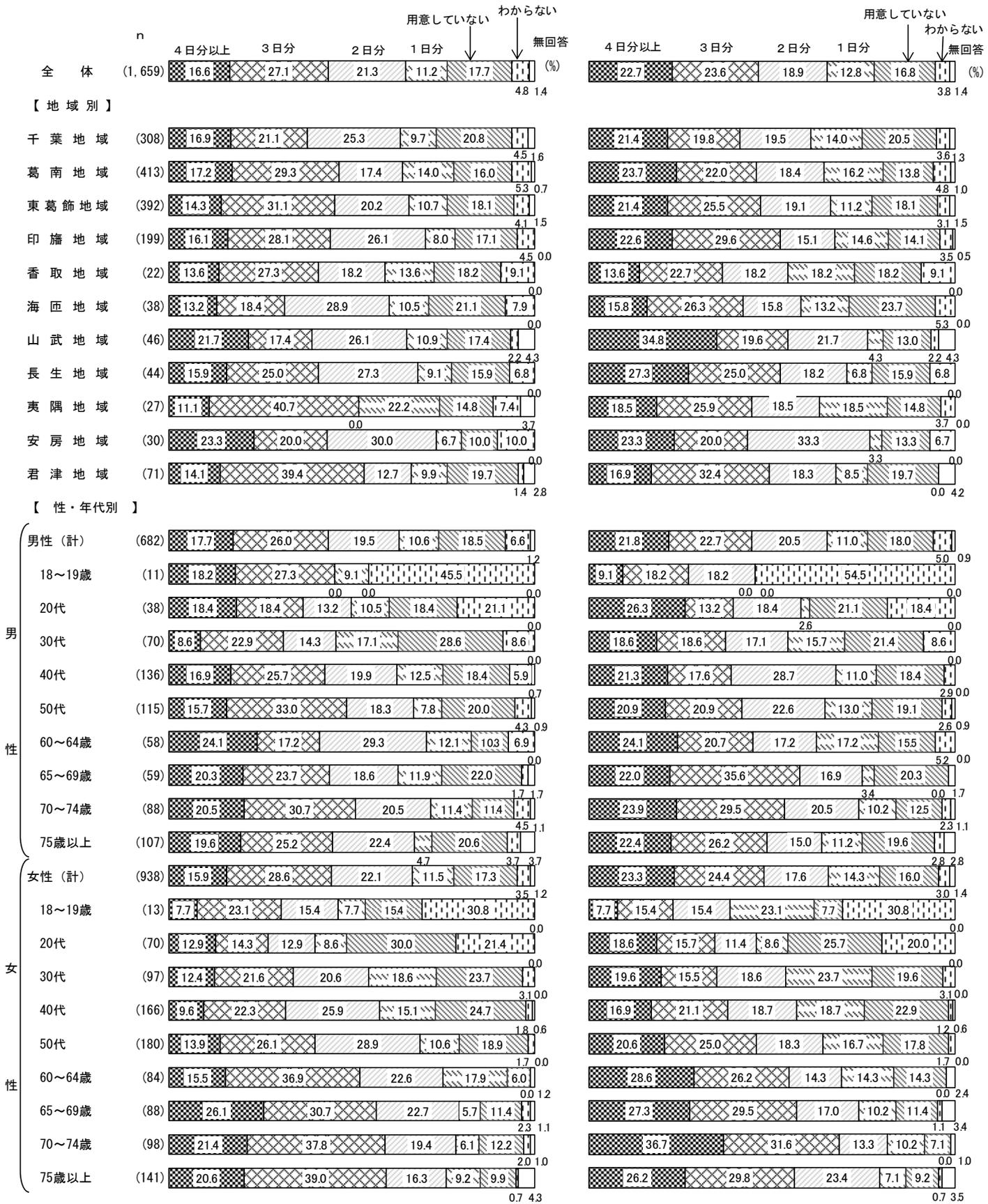
「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」の『備蓄している（計）』は女性の75歳以上（49.6%）が約5割で高くなっている。

一方、「用意していない」は男性の65～69歳（69.5%）が約7割で高くなっている。（図表9-6）

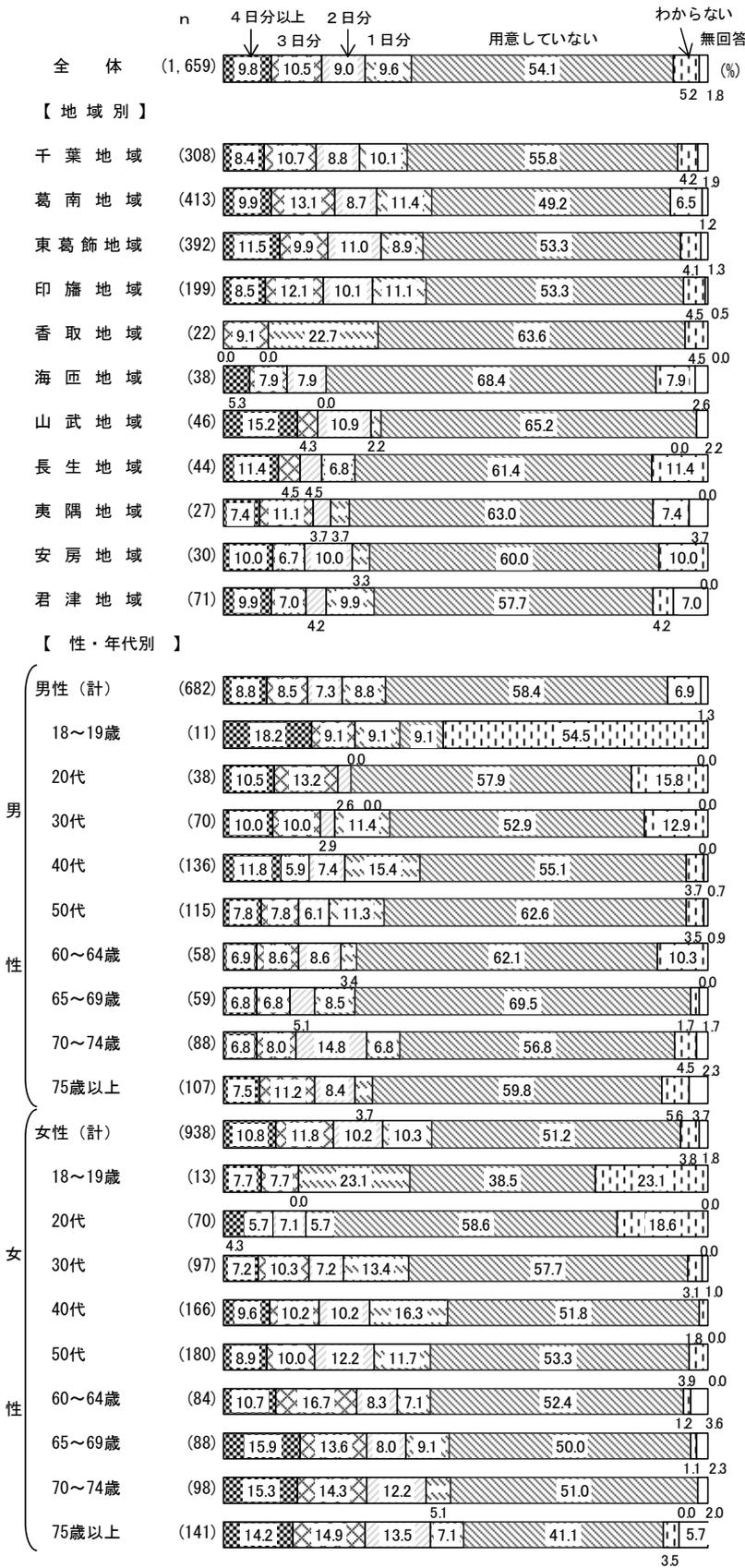
＜図表9-6＞飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況／地域別、性・年代別

(ア) 食料品

(イ) 飲料水

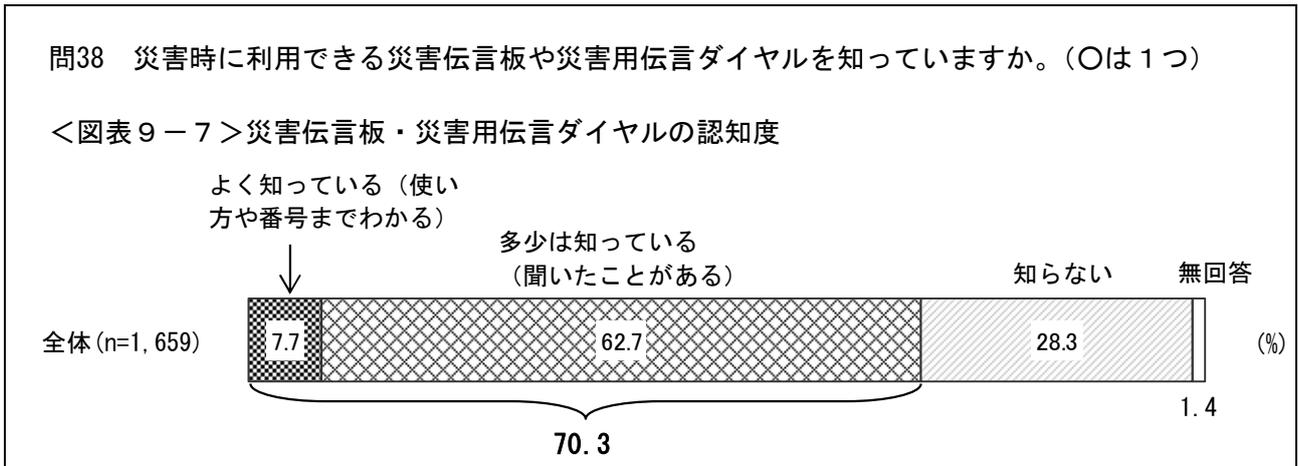


(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）



（４）災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

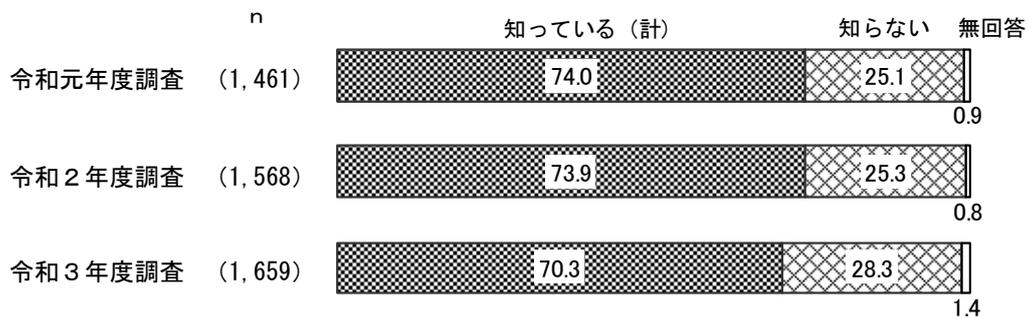
◇『知っている（計）』が7割



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている（使い方や番号までわかる）」(7.7%)と「多少は知っている（聞いたことがある）」(62.7%)を合わせた『知っている（計）』(70.3%)が7割となっている。

一方、「知らない」(28.3%)が約3割となっている。(図表9-7)

【参考】令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



(※) 令和元年度・2年度調査で、「固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“安房地域”（86.7%）が8割台半ばで高くなっている。

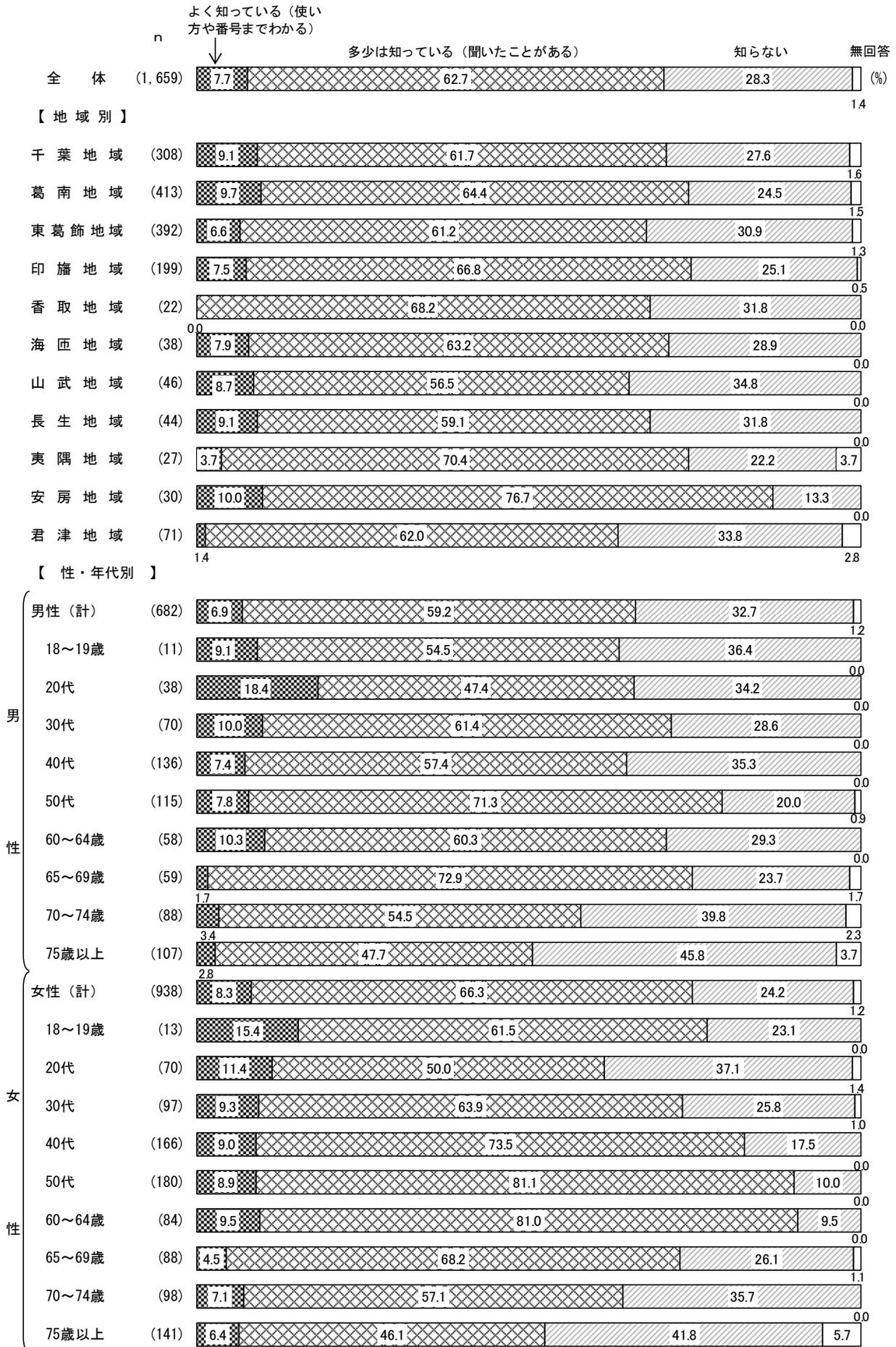
(図表9-8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の60～64歳（90.5%）と50代（90.0%）が9割、女性の40代（82.5%）が8割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」は男性の75歳以上（45.8%）が4割台半ば、女性の75歳以上（41.8%）が4割を超えて高くなっている。(図表9-8)

<図表9-8>災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度／地域別、性・年代別



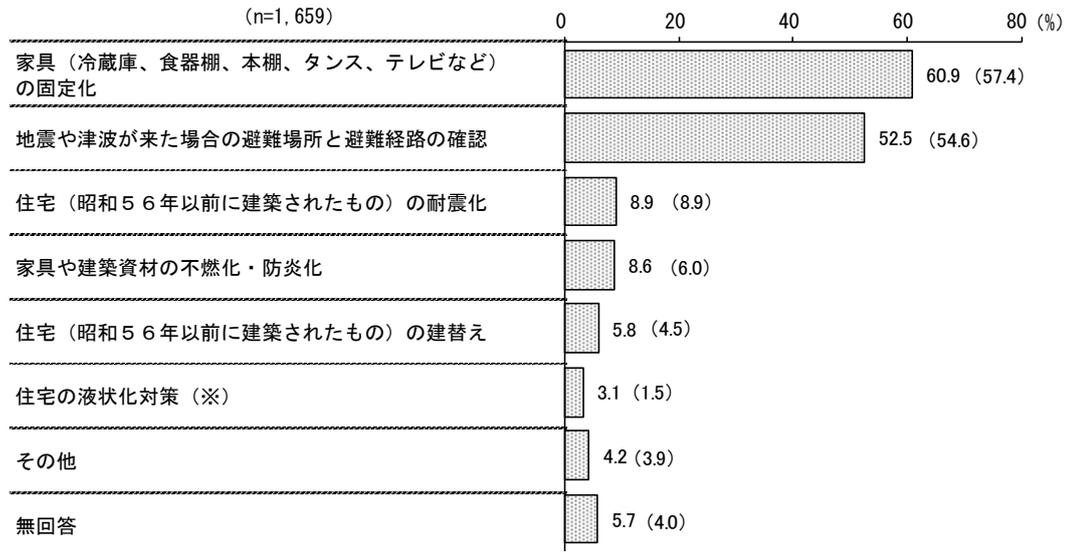
（5）地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が6割

問39 地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか（行う予定ですか）。

（〇はいくつでも）

＜図表9-9＞地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



注）（ ）の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,568

（※）令和2年度調査では、「液状化対策」

地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（60.9%）が6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認」（52.5%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（8.9%）が続く。（図表9-9）

【地域別】

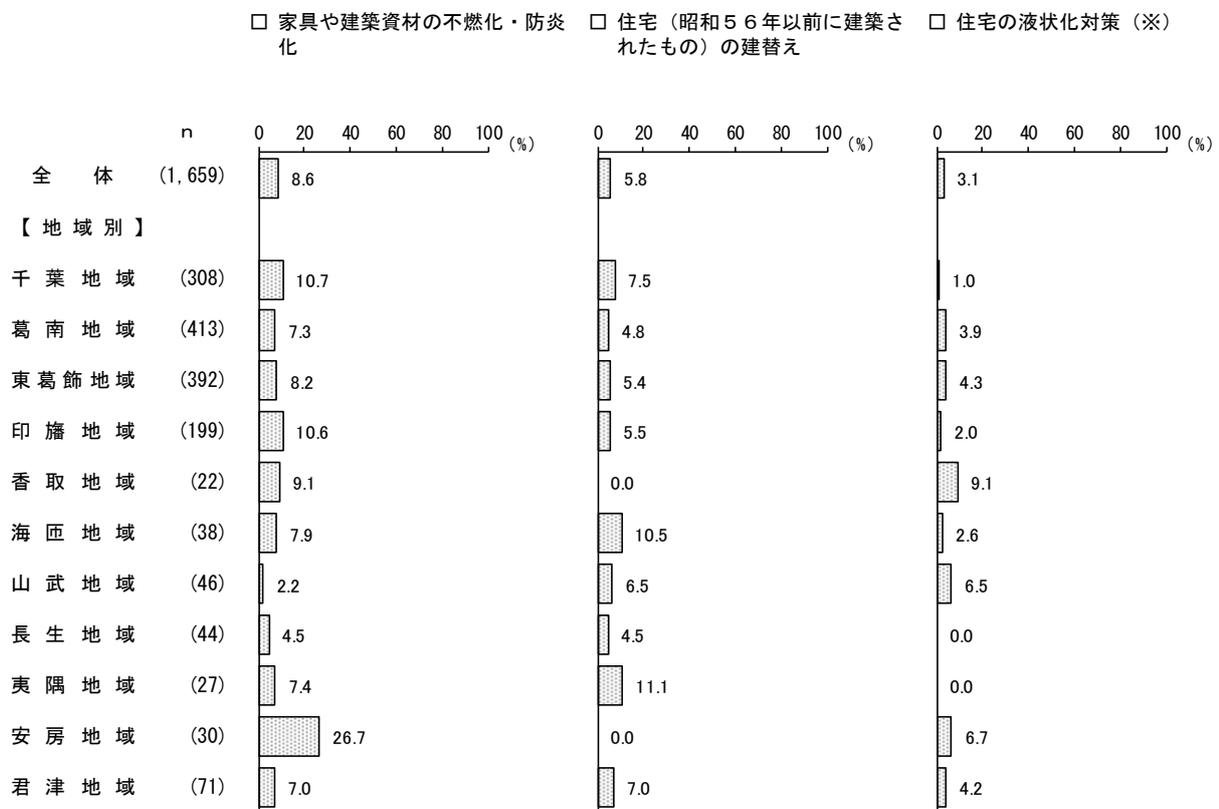
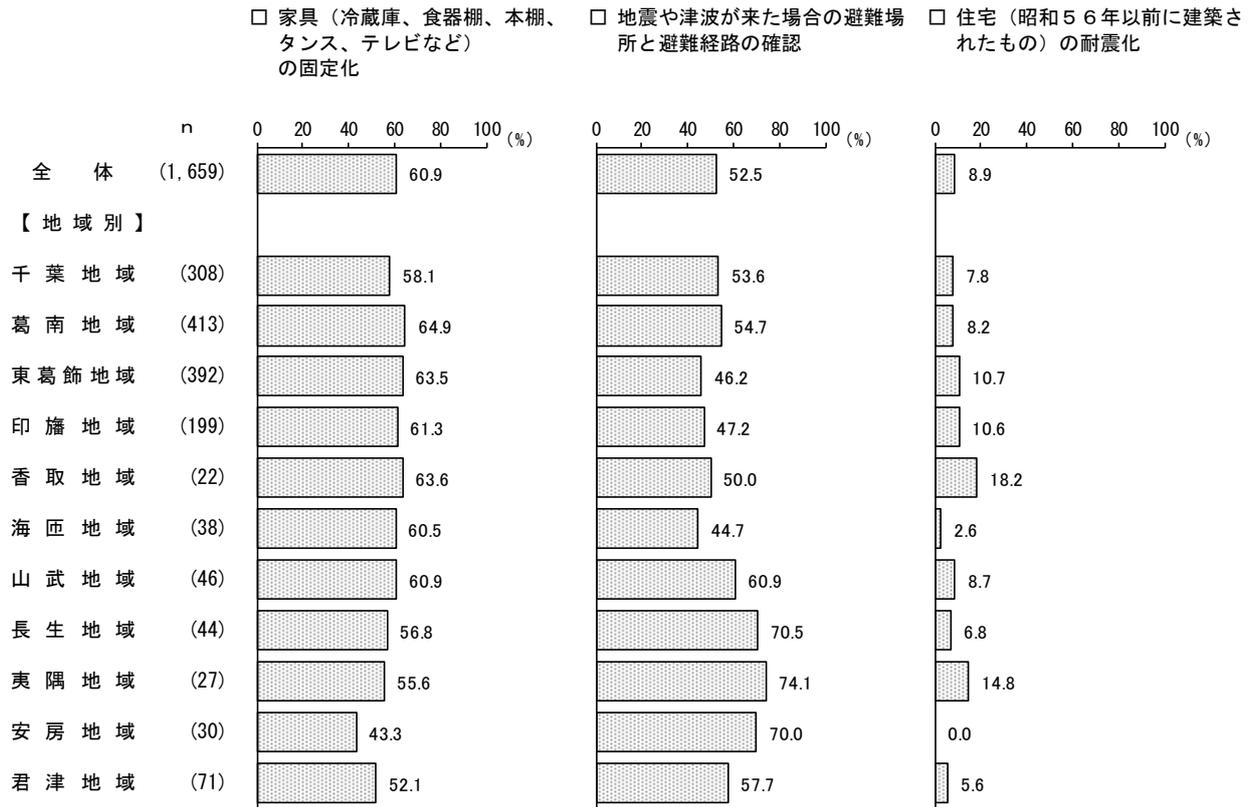
地域別にみると、「地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認」は“夷隅地域”（74.1%）が7割台半ば、“長生地域”（70.5%）と“安房地域”（70.0%）が7割で高くなっている。

（図表9-10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の20代（71.1%）が7割を超え、男性の50代（70.4%）と女性の60～64歳（70.2%）が7割で高くなっている。（図表9-10）

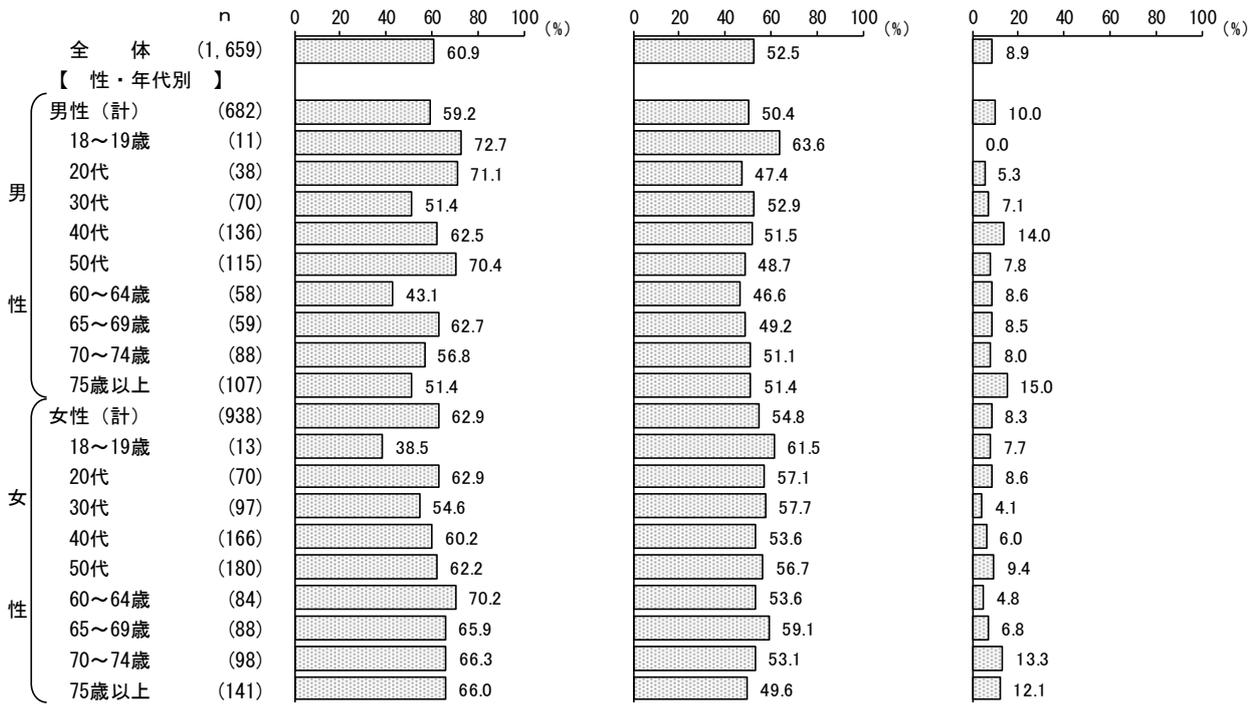
<図表9-10>地震の被害を防ぐための対策（複数回答）／地域別、性・年代別



□ 家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化

□ 地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認

□ 住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化



□ 家具や建築資材の不燃化・防炎化

□ 住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の建替え

□ 住宅の液状化対策（※）

